

共に助け合う 安心の体制づくり

～災害時における手話を主たる言語とする 聴覚障害者への支援に関する協定～



▲安心の体制づくりに向けて協定を締結

災害が起こった時、聴覚障害者は、聞こえない事により、逃げ遅れたり、避難所で孤立するなど、避難行動や生活に支障が出るため、さまざまな支援が必要となります。そのため3月18日、亀岡市および丹波町聴覚障害者協会亀岡支部は「災害時における手話を主たる言語とする聴覚障害者への支援に関する協定」を締結しました。この協定は、災害時において手話を主な伝達手段とした聴覚障害者へのサポート体制を築くもので、京都市内で初めてとなるものです。

口丹波町聴覚障害者協会亀岡支部と亀岡市登録手話通訳者会の皆さんは、これまでも亀岡市が行う総合防災訓練に参加されたり、避難所および公施設、両者の会員の家などが分かる手作りの防災マップを作成するなど、災害時を想定して準備をしてこられました。

実際に避難が必要となった時、聴覚障害者は、外見では障害が分かりにくい「返事をしない」、「大きな音でドアを閉める」など、集団の中でコミュニケーションに支障が生じ、避難所などでの生活に不安を感じることがあると言われています。

そこで、この協定を締結することにより、緊急時における聴覚障害者への円滑な情報伝達・共有を図ることができ、避難所などでのコミュニケーションの向上や互いの安否確認がスムーズに行えるなど、より一層、安心の体制づくりを推進することができると見込まれています。

口丹波町聴覚障害者協会亀岡支部長の井上敏洋さんは「私たちは手話が言語です。筆談でも、スムーズに情報を理解できないことがあります。今回、協定を締結することにより、災害時に日頃から関わりのある手話通訳者が駆け付けてくれると心強いです」、亀岡市登録手話通訳者会会長の中村智加代さんは「阪神・淡路大震災や東日本大震災の時に実際に支援に行かれた人の話を聞き、自分たちに何ができるかを考えました。手話通訳だけでなく、さまざまな場面に応じた支援ができるよう亀岡市の出前タウンミーティングで防災対策を学んだり、消防署での学習会も毎年実施するなど研究を進めています」と話されていました。

亀岡市は今後も、誰もが安心して安心して住み続けられるまちづくりを進めていきます。



▲燃料電池車が水を排出する様子を覗き込む参加者の皆さん

未来の自動車を 体験しよう!

生活の必需品である自動車が地球環境に及ぼす影響と、自動車業界がどのように環境問題に取り組んでいるかを学ぶ「環境自動車教室」を、3月26日、地球環境子ども村(宮前町)において開催しました。

京都トヨタ自動車株式会社を講師に迎え、講義と体験学習を実施。講義では、私たちの生活において排出される二酸化炭素と地球温暖化の関係、その対策としてのハイブリッドエンジンの普及や水素で走る燃料電池車の開発など、環境を守るために自動車業界がどのような取り組みを行っているかを学びました。

続いて、実際に最新の燃料電池車を体験試乗。燃料電池車は、搭載された燃料電池で、水素と空気中の酸素の化学反応によって発電した電気エネルギーによりモーターを回して走る自動車で、二酸化炭素を全く排出せず、走行中に発生するのは水のみです。試乗した親子たちは、排気ガスがなく静かな乗り心地に驚いた様子、停車中に排水される様子を覗き込むなど、環境負荷軽減のための最新の技術を興味津々で体験していました。



▲わくわくしながら燃料電池車に触れる子どもたち

亀岡市は今後も、地球環境について考える機会の創出を施策として位置づけ、未来のためにみんなで取り組む事業を展開してまいります。

やさしい健康講座第103回



亀岡市立病院 管理栄養士 森美香

糖尿病から腎臓を守るために

市民の皆さんの健康に関して、今回は市立病院の管理栄養士が、専門分野についてアドバイスします。

腎臓は血液中の老廃物を濾しとり、体の外に捨てるといった大切な役割を担っています。病気等によってこの働きが損なわれると、人工的に腎臓の役割を肩代わりする人工透析を行うこととなります。日本透析医学会の発表では、2014年は約3万8千人の方が新たに人工透析を導入されており、その原因疾患の第1位は糖尿病性腎症で43.5%を占めています。糖尿病性腎症とは、糖尿病で高血糖

が続くことにより、血管がダメージを受け、細かな血管が多く集まっている腎臓の機能が損なわれることから起こります。

腎臓のダメージが小さい内から適切な食事・運動・薬物療法を行うと、腎症になること自体や、腎症が悪くなるのを抑え、透析導入を遅らせることが可能であると考えられています。

ところが、糖尿病そのものが自覚症状に乏しいため、体調不良から医療機関を受診されたときには、既に糖尿病性腎症が進んでしまっている方が少なくありません。

健診や献血、体調不良や何かの疾患で血液検査や尿検査をされた際に、血糖値が高い、あるいは高めである、またはたんぱく尿であるとの指摘を受けたことのある方は、なるべく早く医療機関を受診されることをお勧めします。